

第2期計画の策定に向けた取組状況について

資料6

鎌倉市歴史的風致維持向上計画協議会 委員

区分	氏名	所属
1 2	市民	大木 淳 公募
		岡 由雨子 公募
3 4	関係社寺	田中 密敬 極楽寺
		新名 紀夫 鶴岡八幡宮
5 6 7 8	関係団体	村田 佳代子 (公財) 鎌倉風致保存会
		横松 佐智子 (公財) 鎌倉市公園協会
		牧田 知江子 (公財) 鎌倉市観光協会
		波多辺 弘三 鎌倉商工会議所
9 10 11 12	学識者	赤松 加寿江 京都工芸繊維大学
		小林 紀子 横浜市歴史博物館
		西村 幸夫 国学院大学
		福岡 孝則 東京農業大学
13 14 15	関係機関 (神奈川県)	向原 浩和 県土整備局都市部都市整備課
		鹿島 美雪 教育局生涯学習部文化遺産課
		星名 隆 県土整備局藤沢土木事務所
16 17 18	鎌倉市	小林 昭嗣 教育文化財部
		能條 裕子 共生共創部
		古賀 久貴 都市景観部

第2期計画検討部会 委員

氏名	専攻等
大木 淳	まちづくり
赤松 加寿江	建築史 (歴史的建築物)
小林 紀子	文化財
西村 幸夫	歴史まちづくり・景観
福岡 孝則	都市計画・まちづくり

○所掌

- (1) 第1期計画の評価と第2期計画の策定方針
- (2) 歴史的風致及び重点区域
- (3) 歴史的風致を維持向上させるための事業
- (4) 第2期計画の素案
- (5) その他第2期計画の策定に必要な事項

○設置期間

第2期計画の策定が終了するまで
(令和7年12月予定)

第2期計画の検討の方向性

検討の前提

第1期計画では、計画の検討や整備に着手し、一定の成果が出始めている。引き続き、第2期計画においても、歴史まちづくりの取組を継続し、発展させることが重要である。

検討の方向性

●方向性1

現計画では6つの歴史的風致を設定しているが、新たな歴史的風致の追加又は掘り下げについて検討する。あわせて、重点区域の拡大について検討する。重点区域における構成事業の追加を検討する。

●方向性2

第2期計画の取組方針は次のとおりとする。

- ①歴史的建造物の持続的な保存・活用
- ②官民連携の推進
- ③歴史まちづくりの面的な展開・ネットワークの構築

●方向性3

面的な展開等を図るため、都市計画・まちづくりの視点の拡充を図る。

その具体策としては、歴史的建造物の周辺市街地の整備に関する方針・計画を追記する、歴史的遺産等のネットワーク化を図るため、散策路等の整備やウォーカブルな環境の整備の事業の拡充を図る。また、鎌倉ミュージアム構想との連携を検討する。

●方向性4

近代から現代（50年経過）にかけての歴史まちづくりの事象にも光を当てる。

例えば、流鏝馬、花火大会、鎌倉祭りなど、歴史まちづくりに関連する取組など。

●方向性5

歴史的風致形成建造物の候補に民間所有の歴史的建造物を追加指定する。

あわせて、民間所有の歴史的建造物への支援拡充（国交付金の活用）を検討する。

●方向性6

歴史まちづくりを取り巻く社会的な課題への対応を検討する。

例えば、持続的な都市経営、ダイバーシティ・マネジメント、オーバーツーリズム、観光のDX化、土砂法の改正、古都の市街地を取り巻く緑地の持続的な維持保全など。

市総合計画次期基本計画、観光基本計画の改訂の考え方を第2期計画に反映させる。

●方向性7

歴史まちづくりに関する推進体制の強化を第2期計画に位置付け、実現する。

- ①複数の部局が連携し実施する事業の推進体制の整備
例えば、「歴史的遺産をつなぐ散策路等整備事業」など。
- ②歴史的建造物の活用における建築部局との連携強化
- ③文化財部局と連携した歴史まちづくりの推進資料の整備

歴史的風致の追加と重点区域の拡大のイメージ

6つの歴史的風致

	中世	近世	近・現代	現在
生きている歴史的遺産（鎌倉の歴史的風致の基盤） (掘り下げ)	(1) 社寺における祭礼・行事にみる歴史的風致 鎌倉幕府を中心に建立された社寺は、現在も宗教活動を継続している「生きている歴史的遺産」であり、社寺の存在自体が鎌倉の歴史・文化の源泉であると同時に、他の歴史的風致の形成基盤となっている。			
	(2) 海にまつわる伝統行事にみる歴史的風致 日本最古の港跡「和賀江嶋」が位置する材木座をはじめとする地域では、江戸時代頃から現在に至るまで、海にまつわる生業や伝統行事が営まれている。			
	(3) 若宮大路周辺における商いにみる歴史的風致 近世以降、信仰の対象であった社寺は遊山の対象ともなったことから、若宮大路は多くの遊山客で賑わうようになり、この地で観光客を対象とした商いが続いている。			
	(4) 周遊観光にはじまる「江ノ電」にみる歴史的風致 近世の周遊観光の歴史を受継ぐ江ノ電が、社寺、谷戸の緑、海岸線などを横目に走る姿は、鎌倉を代表する景観として地域に根付き、人々に親しまれている。			
	(5) 別荘文化に由来する歴史的風致 この地に別荘を構えた人々の価値観は、習慣、生業、芸術等に影響を与え、地域固有の自然的・歴史的背景や人的・物的交流等を通じて洗練され、現代の鎌倉に住まう人々の趣向等にもその諸相が見られる。			
	(6) 歴史的遺産と一体となった山稜の保全活動にみる歴史的風致 歴史的遺産は自然的環境と一体を成して歴史的風土を形成しており、多くの人が緑地の保全に携わることでそれが保たれている。			
	(追加) (7) ●●●にみる歴史的風致 「江の島詣」における歩く観光、富士山と江の島が重なる風光明媚な海濱の地、……。			

